

散居村の保全と活用シンポジウム【第2回】

日時 平成24年11月25日(日) 午後1時30分より

会場 砺波市文化会館 多目的ホール

【次第】

◆主催者あいさつ 実行委員会 代表 尾田 武雄 午後1時30分～

◆基調講演：地域資源を生かしたまちづくり 午後1時40分～

ー 空き家を活用した地域活性化の取組み ー

講師 麻田 馨 氏 (兵庫県篠山市福住まちづくり協議会 前会長)

◆パネルディスカッション：散居村を生かした経済の活性化 午後2時40分～

パネリスト 石崎 元蔵 氏 (鷹栖建工(株) 代表取締役)

北村 夏樹 氏 (日ビル商事(株) 代表取締役)

森田 由樹子氏 (株エコロの森 代表取締役)

横山 宜致 氏 ((公財)兵庫丹波の森協会 専門研究員)

コーディネーター 余西 孝之 氏 (砺波商工会議所 総務委員長)

☆お知らせ☆

●第3回散居村の保全と活用シンポジウム

◆日時：平成25年1月27日(日)13:30～16:00 砺波市文化会館 多目的ホール (砺波市花園町1-32)

◆これまでの経過

◆パネルディスカッション：「散居村の活用と地域の発展」

パネリスト：尾田 武雄 氏 (砺波市空き家再生等推進協議会 会長)

川邊 陽子 氏 (兼業主婦)

原野 博明 氏 (サンエー建工(株) 代表取締役社長)

本江 哲 氏 ((社)となみ青年会議所 砺波コミュニティー委員長(次年度予定))

宗景 昭 氏 ((社)日本造園組合連合会 富山県支部長)

コーディネーター：出村 忍 氏 (特定非営利活動法人 砺波土蔵の会 理事)

●散居村の保全と活用シンポジウムの詳細は、砺波野.jp(<http://tonamino.jp/>) 又は砺波市(<http://www.city.tonami.toyama.jp/>)で掲載しています。

講師・パネリスト・コーディネーター 紹介

【基調講演】

麻田 馨（あさだ かおる）

2008年から3年間、篠山市福住地区自治会会長兼小学校校区まちづくり協議会会長を務める。この間、空き家の利活用や伝統的建造物群保存地区の指定等に取り組むとともに、神戸大学等と連携しながら、まち並みや地域行事等の地域資源を生かした人口倍増を目指す取組を展開している。



【パネリスト】

石崎 元蔵（いしざき げんぞう）

砺波市生まれ。鷹栖建工(株)代表取締役のほか、(社)富山県宅地建物取引業協会砺波支部長や(協)砺波市建設業協会副会長等を務める。国産材の使用を中心とした木の住まいにこだわりを持った家づくりを基本とし、人と自然にやさしいまちづくりを目指している。



【パネリスト】

森田 由樹子（もりた ゆきこ）

北海道生まれ、富山市在住。大学卒業後に新聞社に勤務。夫の転勤を契機に早期退職し、家族で富山に移住。その後、県内の地域資源を生かした各種エコツアーの企画・販売を行う(株)エコロの森を起業するとともに、NPO法人グリーンツーリズムとやまの理事等を務める。



【コーディネーター】

余西 孝之（よにし たかし）

砺波市生まれ。砺波商工会議所総務委員長のほか、(株)余西商会代表取締役、となみ観光交通(株)代表取締役社長等を務める。散居村や地域観光施設等を活用した旅行プランの開発、電気自動車や高齢者などに配慮した介護タクシーの導入など、地域の課題に対応した事業を展開している。



＜兵庫県篠山市の概要＞

篠山市は人口約44千人、兵庫県の中東部に位置し、京都、大阪、神戸から50km圏内の都市です。

地勢は、四方を山で囲まれた盆地であり、その中央部に城下町(篠山城)として栄えたまち並みが現存し、周辺部には農村の風景と自然豊かな森林が作り出す美しい里山の景観が残されています。また、丹波黒大豆や丹波栗などの全国的に有名な農産物が生産されています。

【パネリスト】

北村 夏樹（きたむら なつき）

砺波市生まれ。日ビル商事(株)代表取締役。森ビル(株)勤務の際、六本木ヒルズの開発や広報を担当した経験を生かし、「地方と都会、人と人」などの繋ぎ役としたプロデュースや地域ブランディングを目的とする「ここプロジェクト」のプロジェクトリーダーを務めるほか、とやまstyleなどに参画している。



【パネリスト】

横山 宜致（よこやま のぶよし）

長年、民間のまちづくりコンサルタントに勤務し、1999年から公益財団法人兵庫丹波の森協会専門研究員として、丹波地域の住民地域活動やまちづくりに対するアドバイスをを行う。現在、篠山市の嘱託職員のほか、各種まちづくりに関係するNPO法人の理事等を務める。



（メモ欄）
